

# Jomon Shiba



NPO法人  JSRC  
縄文柴犬研究センター

47 号

2020年9月10日

NPO法人  JSRC  
**縄文柴犬研究センター**

もくじ	1
イヌにとっての快適な環境とは (29号再掲)	2
係留による獣害対策広島研究所報告	6
金沢縄文柴犬交流会報告	12
お便りコーナー K.Aさん	15
2020年第2回役員理事会報告	16
会員アンケートについて	18
事務所報告	20

**特定非営利活動法人 縄文柴犬研究センター**

郵便振替口座 : 02280-2-106951

会事務所 : 〒 737-2214 広島県江田島市大柿町深江 478-1 ☎ 080-4551-9965  
FAX 0823-57-2692

<http://www.jomon-shiba.com/>

Email: [encounter\\_shiba@jomon-](mailto:encounter_shiba@jomon-)

# イヌにとっての快適な環境とは (29号再掲)

岩手県 T.Sさん

たま (栗駒の紅中)

2014年6月30日生 (栗駒の紅中×鉄火の紅子)、雄



先輩犬すず(左)  
と縄文柴犬のたま  
(右)



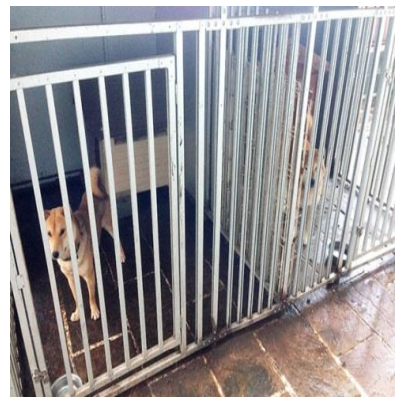
寒さに凍えて  
家の中で暖を  
とってほしいと  
設置した断熱  
材はワンのか  
っこうの遊び  
道具となって  
粉々にされて

## 1. はじめに

我が家での犬飼は、「外飼い」を基本としている。子供の頃からどうも家の中で犬を飼うというのには違和感があり、「犬は家族」とはいえ、外の犬小屋にと考えている。

柴犬を飼いたいと思う背景には、このような視点があるのだろう。毎朝、窓を開けると元気に迎えてくれるワンたち、そんなライフスタイルが理想である。

厳寒の冬場でも犬小屋を暖かくして外で越冬できるようにと思い、毎年11月には犬小屋の冬支度をしている。電気カーペットなどの暖房機器を犬小屋に設置するのが理想的ではあるが、電気ケーブルを噛んだりすることや、自宅と犬舎の距離が若干あるので、電源確保には今ひとつ難があるというので、犬小屋の中に毛布を入れたり、何らかの断熱効果を工夫したりという程度の対応である。



※我が家の居間の向かいにある犬舎。2頭分長屋形式になっています(´д´)

## 2. 縄文柴犬欄との失敗談

2005年度から、我が家では柴犬の2頭飼い(日保犬籍・縄文柴犬籍)をしているが、縄文柴犬の方が、この冬場対応でだいぶ手こずってきた経緯がある。

日保犬籍の方はこちらの冬場の仕掛けに対して、その意図を理解?してかどうかはわからないが、問題なく対応してくれるのだが、縄文柴犬(中の蘭姫・H24.1没)は、ことごとくダメ出し。

2頭飼いになる前から我が家にいた先輩犬(日保犬)の場合、冬場は湯たんぽにバスタオルをくるんで小屋の中に入れてやると、「これは快適」とばかり、冬の夜は静かに家の中に横たわっていたのだが、後輩犬の縄文柴犬は、同じようにしてやると「何じゃこりゃ!」とばかりに夜中を通してバスタオルを引きはがし、湯たんぽを噛んで穴を開け、朝になったらバスタオルのかけらと穴の開いたぼろぼろの湯たんぽが小屋から引き出されている惨状。

それではと、湯たんぽなしで毛布を代わりにとに犬小屋に敷いてやってもダメ。直接体に接しない



ように断熱材を犬小屋の周りに巻いてやっても、イイ迷惑とばかりに引きはがすといった始末。

あげくは「じゃあ、余計なことはしないでほっとくか」と怖々放っておいたところ、一冬をそれで過ごすというたくましさであった。

しかしながら、8歳を迎える冬の寒いある晩に、突然死なせてしまうと言う大失態を迎えてしまった。「たくましさがあるから大丈夫」ではなく、見かけ上元気に見えるように見えてイヌの老年期にさしかかっている時期を察して対応しなかった飼い主側の責任だと思っている。

考えさせられたのは、「イヌが思う快適さ」と「ヒトが思う快適さ」のズレである。そのところが、私自身よく理解できていなかったという反省があり、テレビでよく見かける「愛犬家」を称して、周りに呆れられる対応をしている勘違い輩と自分は何の変わりがないのだと自己嫌悪に陥った次第である。

### 3. リベンジの冬場到来

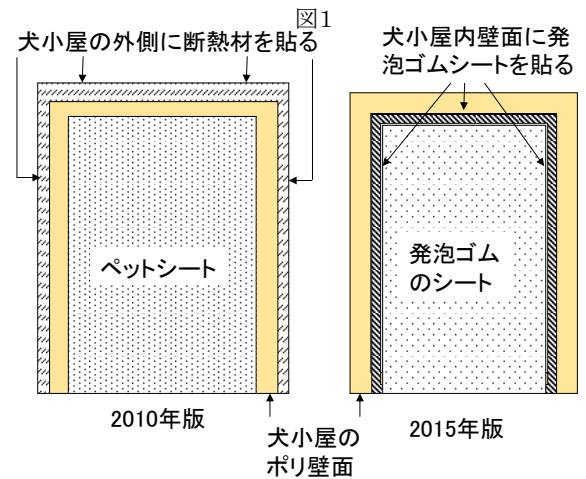
昨年夏に、亡くなった縄文柴犬の後継犬を家に迎えた。血統書を見ると懐かしい名前が書かれている、亡くなった犬のちょうどひ孫にあたる犬である。

昨年冬はまだ子犬であることから家の中においたが、春からはひいおばあさんのいた犬舎において、ひとシーズンを過ごし、この度外での冬を迎える。

犬舎の中にポリエチレン製の犬小屋をおいてはいるが、犬小屋には何らかの防寒対策をする必要があるため、次のような準備をした。

- ・剥ぎ取られなくするには、小屋の内側に、密着するような形で断熱材を入れる。
- ・ひいばあさんの時の経験からすると、断熱シートを小屋の壁にガムテープで貼り付けるのではなくて、剥ぎ取られない形式に取り付ける必要がある。

今度は前回のような失敗はするまいと思いながら、図1のような設置を想定して防寒の設置を試みた。



資材は10mmラバーシートと両面テープ。3,000円程度で準備できる。



両面テープをつかい、シート部分を固定する。



接着部分が露出していない分、引っかけて外すことはできないはず…。



同じ方法で、内壁面も固定。これで小屋内部の暖熱は完璧！

- ・断熱材は、柔らかくほぐしやすい素材ではなくて、発泡ゴムの薄いものが望ましい
- ・断熱材は 10mm 厚の発泡ラバーシートを使用。幾分柔らかい感触を持たせたほうが良いと考え

た。

- ・断熱材の固定については、以前はガムテープで行っていたが、犬にとってはこのテーピング跡が気になるポイントらしくて、これを剥がそうとすることから始めた様子が見られていたので、接着部については目立たぬよう、両面テープでぴったり固定するように切り取って接着した。
- ・犬小屋全体を断熱材で穴蔵式に囲い込むことで、居住している際の断熱効果がさらに高まるよう、また、いわゆる縫い目が目につかないように、ラバーシートを小屋全体を囲い込むように採寸し、両面テープで固定。爪でシート壁面を引っ掻いたとしても簡単にはとれない構造にした。
- ・ここまでして、ちょっと気になるのはゴム臭。場合によっては小屋の入り口で警戒して、中に入ろうとしないかも…

#### 4. 改装工事後のワンたち

冬支度を終えて、縄文柴犬と先輩犬を犬舎に引き入れた。

両者とも犬小屋の入り口から眺めて「何だ、こりゃ？」といわんばかりにまずは足下のゴムシートをゴシゴシこすりつける様子。中に入って今までにない感触であることを確かめて、怪訝そうな顔で2匹ともこちらを眺めだした。

先輩犬の方は、どうやら事情を察した？らしく、まあこんなものかね…とでも言いたげな雰囲気その後小屋の中に収まったが、縄文柴犬側はいつまでもシートをこすりつけたり、壁をガリガリやっている様子。

まあ、なんとかなるだろうと、その日を終えた。

#### 5. 呆れた…朝の惨事

次の日の朝、いつものように犬舎を眺めたら、ご覧の通り。縄文柴犬舎のほうは、一晩かかってやっとなんか剥がしたのだろうか。ゴム断熱材が見事に剥がされて散乱状態であった。

しかしながら、先輩犬の方は全く手つかず、こちらの思惑通りに対応していたので、仕掛けた側もちょっと救われた気持ちではあるが…。

縄文柴犬の反応は、「まだまだやんちゃが抜けない」という言い方もできるが、以前に飼っていた縄文柴犬と同じような結果を見舞わされたわけで、世代をまたいでの同様な反応に驚きを感じている。



一つには、環境の変化に敏感なこと。単なる遊び道具としてこういった防寒グッズに目をつけただけではなく、たぶん匂いや感触など、微妙な変化に対して敏感に反応する性質があることが考えられる。

犬本来の個性や、しつけ歴の違いなどもあるだろうが、血統の違う日保犬との反応の違いは、縄文柴犬の生来的な性質と考えることもできるのではなかろうか。

今のところ、冬場をしのぐ縄文柴犬対策？としては、以下のようなところを考えている。

- ・犬本体の冬場をしのぐ体力の養成…縄文柴犬は一般に皮下脂肪が少なくやせ型であるように思う。一つの対策として冬場は皮下脂肪を若干つけさせる、つまりは冬場の栄養状態を良くするべきと考える。肥満とにならないように注意しながら心がけたい。
- ・転ばぬ先対応ではなく、適時適策で…今回の防寒対策は、縄文柴犬に拒否をされたというよりは、必要のない過保護な対応だったということもいえよう。こちら岩手では1月を過ぎると、降雪量よりも厳しい寒さを迎えることが特徴である。犬たちの様子をよく観察しながら、犬たちにとって必要な対応を考えてみたい。



## 会報誌掲載記事募集

皆様からのお便りお待ちしております。



## 金沢縄文柴犬交流会報告

C.Dさん

お盆の最中ではありましたが、8月16、17日に縄文柴犬交流会を開催致しました。

今回は宝達山の頂上にある国見ヒュッテというキャンプ場で

犬と一緒にキャンプをするっという形での開催です！

お天気に恵まれ、とても見晴らしの良い場所でした！

キャンプ場には私達だけの貸し切り状態でしたので、

いつもはひっこみじあんのキューちゃんも、

今回はノビノビしていたように思いました^-^



参加者はKさんとキューちゃん、おくしんぼのカリー君と奥さんと息子さんそれに私とモンちゃです！



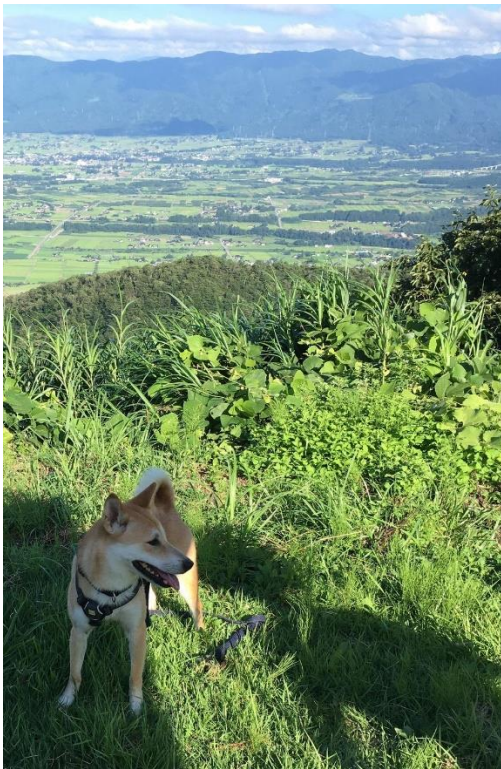
お昼にザルうどんと天ぷらを揚げて、みんなで食べながら愛犬の状況報告などを話しました。

カリー君とモンちゃんは、いどこに当たるのか顔が似ていると話していました。でも、やっぱり雌と雄では体格や力は全然違うようです！



カーリー君

モンちゃん



カーリー君はずいぶん

可愛がられて育てられてるようです^-^-

臆病な所があるそうです！

黒梅さんの所のキューちゃんは、

飼い主さん大大大好きな女の子です！

って言っても、もう7才になるそうですが…





みんな顔は似ているようですが、その家その家で、犬の性格が違うようです！

そんな他愛もない話しをして楽しい時間を過ごしました！

夜はカーリー君家族は帰られましたが、ちょうど流星群がきていた時でもあり、星も景色もホントに綺麗で最高な交流会になりました！

次の日の朝も清々しく目覚め、犬達と元気に散歩に出かけてのんびり過ごした後、帰路につきました！

黒梅さんも、久しぶりに「のんびりした」と喜んでおりました！

今後、金沢にも縄文柴犬仲間が増えて、このような交流会が出来たらいいなあと、思っております。

また、縄文柴犬を通じて、いろんな方にお会いできてとても勉強になります！

これもモンちゃん効果だと喜んでおります^-^

これからも、細々とではありますが、活動して行きたいです！

ありがとうございました



## お便りコーナー

K.Aさん

前略

2020年3月15日の午後2時10分に飼っていた凧こと縄文柴犬(当年10歳)が老衰による病気で亡くなりました。悲しくて辛くて堪りません。今でも涙が止めどなく流れ出ます。

この犬は今から10年前の2月に秋田のY.Gさんから大阪の伊丹空港に送ってもらいました。

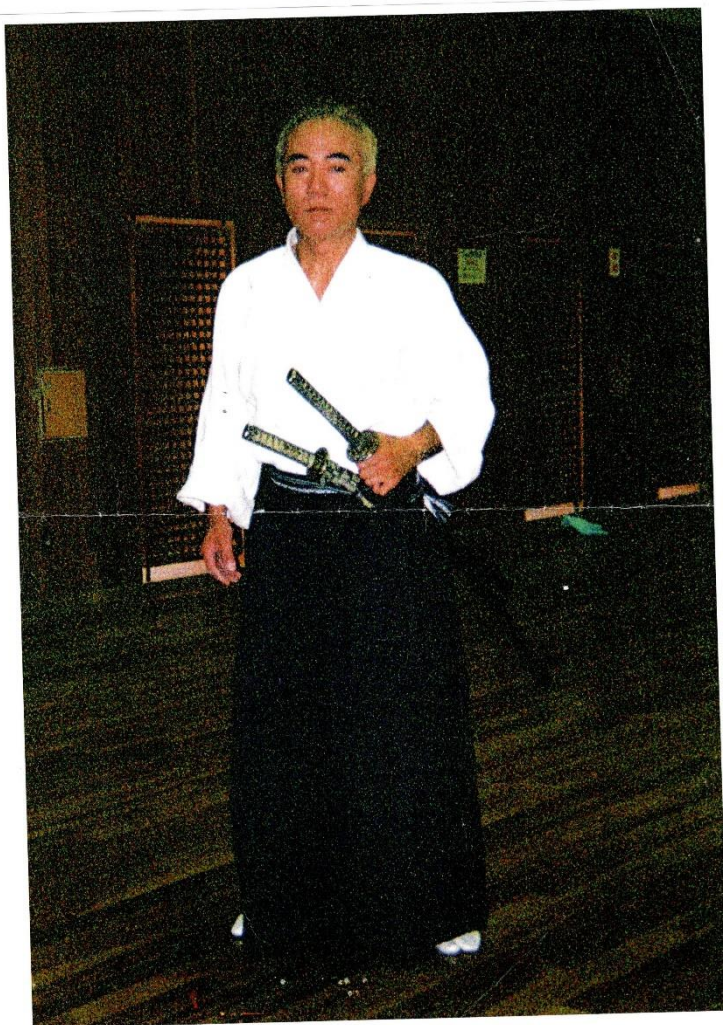
初対面の時、感動しました。

こんな犬は初めてです。他の種類の犬を飼っている人に怒られてしまいそうですが、もう多種の犬は飼えないと思うほど魅力ある犬です。

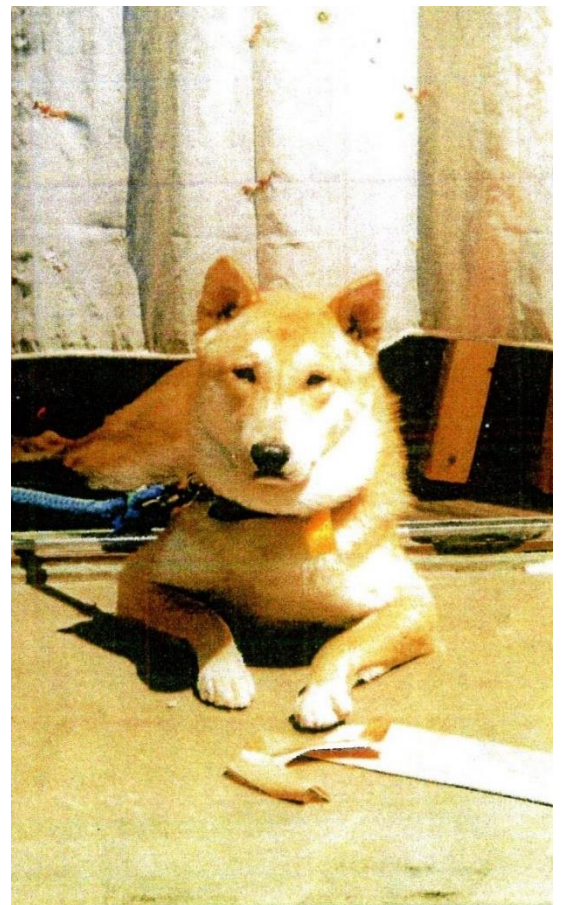
この犬種は日本から絶滅させてはいけないと思っています。

縄文柴犬は武士の雰囲気を感じます。私も大阪で縄文柴犬の保存に携わりたくと思っています。

早々



居合道姿のK.Aさん



1歳ころの凧ちゃん



